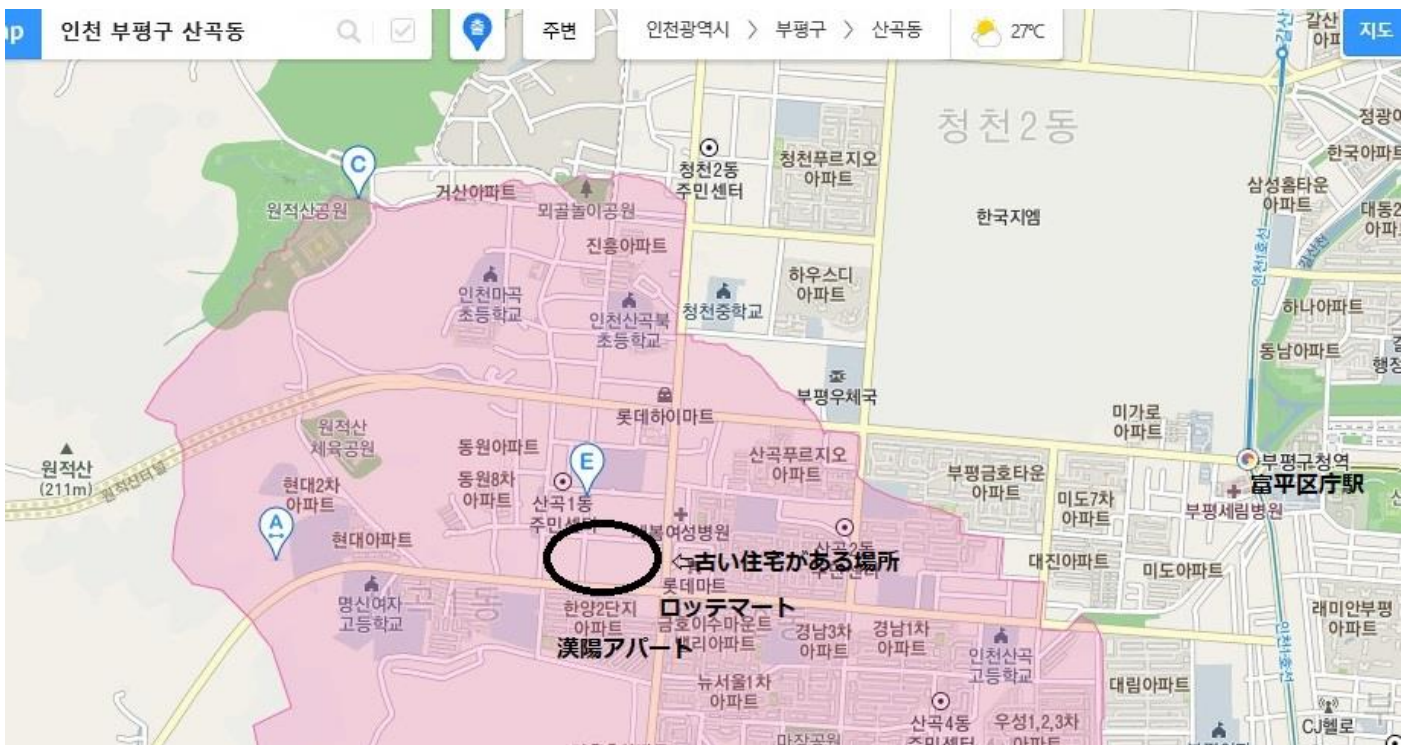


山谷洞に残る日本時代の住宅

令和になってから初めての仁川訪問は山谷洞から始めることにした。なぜ、山谷洞に行くことにしたのか。それはこの「仁川を想う会」の掲示板にやっさん様から書き込みがあったことから始まる。やっさん様のおじいさま一家は仁川府の白馬町で暮していたとのこと。しかし白馬町がどこなのかが分からないという書き込みだった。この白馬町が現在の山谷洞である。

白馬町という地名自体は、<http://liumeiuru.hacca.jp/2013/05/57/> にも出ているように、日本時代の短い間に使われていたもので、山谷洞では現在でも白馬(백마)という名称を使ったものがよく見られるようだ。わたしは今回初めて山谷洞に行く。それもあって山谷洞に向かう前にソウルで「韓国古建築散歩」の管理人さん(以下、古建築散歩さん)と会う約束をしていた。古建築散歩さんと会うのは今回が2回目なのだが、前回初めて会ったときはあいさつもそこそこお互いが通訳で忙しかったため、会話する時間がほとんどなかった。今回はゆっくりお話もでき、去年の仁川訪問のことや群山や済州の話もしながら、山谷洞に残る古い住宅についても漢陽アパートの上やロッテマートに行けば住宅がある一帯がよく見えるなど色々教えてもらった。(下の地図に黒色で囲っている場所は古建築散歩さんのHPに出ている場所。ちなみにピンク色の部分が山谷洞)



古建築散歩さんとはソウルで別れ、地下鉄7号線に乗った。山谷洞には富平区庁駅から歩いて行く。当然のことだが、わたしがソウルにいた2002年よりも地下鉄や鉄道路線が増え、非常に便

利になっていた。富平庁駅も新しくできた駅で、現在は山谷洞にも駅を建設中だ。

7号線の終点、富平区庁駅に着いた。コインロッカーに荷物を入れ、地上に出てから大通りを西へ西へと進んだ。2つ目の大きな交差点、ここを南の方に曲がれば、古建築散歩さんから聞いたロッセマートや漢陽アパート方面で、古い住宅が集まったエリアがある。そこにも行きたかったのだが、今回は滞在時間も少ないこともあって、残念だが諦めることにした。そして方向を変え山谷洞1番地という場所を目指した。2013年まで韓国の住所表示に使われていた地番は、日本時代の土地調査事業で付与されたもの。だとすれば白馬町1番地は山谷洞1番地となるのではないか。間違っているかもしれないが、今回はその場所を見ることが目的の一つであった。



下の写真に住所が写っている。五角形に書かれているのは現在韓国で使用されている道路名住所表示。その下にある長細いのが以前使っていた地番による住所。最近では地番による住所表示を見ることは少なくなってきた。ハングルを漢字にすると「山谷洞1-11」となる。この近くには今でも古い建物が残っていたが、人が住んでいない建物も多くあるように感じた。



山谷洞 1 番地で見た古い建物



陸軍の工場に勤めていたやっさん様のおじいさま、そして一家はこの付近に住んでいたのだろうかと、想像しながら探し歩いた。気持ちはタイムスリップしたかったが、今回はそれができなかった。写真を撮っているわたしをじっと見ている韓国人のおじさんたちを気にしながら、細い路地に入って行き、さらに写真を撮った。この細い路地に入っていく人は珍しいのか、一人のおじさんはわたしの後ろをつけてきた。韓国では徴用工問題がニュースとなっている時期、ちょっとまずかったかもしれない。おじさんが話しかけてきたら、何を目的に写真を撮っているのか、正直に話そうと思ったが、結局おじさんは話しかけてこなかった。

今回わたしが行った場所を地図に赤色で囲ってみた。山谷洞の北端に位置する場所だ。やっさん様に教えてもらった伯母さまの記憶では家の近くに川が流れていたという話がある。そのことを昔山谷洞に住んでいた人に聞いてみた。その人の話では今回わたしが歩いたエリア付近に川が流れていたであろうということだった。このことについては現在調査中、地図や資料の使用が許可されれば、資料を公開し文章も加筆する予定だ。(2019年7月2日訪問)

